

2020年10月13日

推薦された学長候補者の公表について

公立大学法人北九州市立大学
学長選考会議

現学長の任期（2021年3月31日）満了に伴う次期学長選考の実施について、2020年9月1日付けで公示を行い、同年9月30日に候補者の推薦を締め切りました。

その結果、推薦された学長候補者は下記のとおりです。

記

学長候補者			代表推薦人 所属・氏名
氏名	現職	生年月日	
松尾 太加志	北九州市立大学 学長 (副理事長)	昭和33年1月15日	外国語学部長 教授 伊藤 健一

北九州市立大学学長候補者推薦理由書

(代表) 推薦人 氏名(自署)

伊藤 健一

学長候補者 氏名(自署)

松尾 太加志

松尾太加志氏は、2013年から2017年まで近藤倫明前学長のもとで理事・副学長を務められ、第2期中期計画の遂行に尽力される一方、第3期中期計画の策定に携わり、その第3期中期計画が開始される2017年4月、後任として本学第14代の学長に選出された。

松尾氏の教育研究分野での見識の高さは言うまでもなく、1993年に本学着任後、専門の心理学の分野を中心に多くの著書や論文を公表し学界でも広く活躍しておられ、学部生大学院生を問わず多くの優秀な学生を輩出してこられている。とりわけ大学院社会システム研究科指導教員として、修士9名、博士7名の学位取得指導実績があり、この点は教育研究機関である大学のリーダーとして、管理運営能力などに勝って第一に評価されるべき実績である。これに関しては誰しも異論をはさむ余地はなく、「シリーズ北九大の挑戦」シリーズの第3弾『教師が変わる、学生も変わる：ファカルティ・ディベロップメントへの取り組み』の執筆及び編集を担当されたのもそうした実績の賜物である。それに加えて大学の管理運営分野でのリーダーシップも早い時期から発揮されており、2004年から人間関係学科主任および学科長を4年間、2008年から文学部長を5年間務めてこられた。この間に発揮された管理運営能力が高く評価され、2013年から4年間、本学理事・副学長を務められることとなった。

副学長としての務めの傍ら、松尾氏は図書館長、評価室長を兼務され、2015年に本学が受審した認証評価の際のデータ収集、資料作成の中心となり、すぐれた手腕を発揮された。また、新図書館の構想、建築にあたってはその中心として重責を担ってこられた。こうした実績を踏まえて現在進行中の第3期中期計画の策定の中心となられた次第である。この間、松尾氏は大学内での務めに加え、2015年には大学基準協会基準委員会の委員に就かれ、本学のみならず全国の大学の在り方について考察する知見を深められた。また2013年には北九州市立図書館協議会会長、2016年には東アジア友好博物館交流事業実行委員会副委員長に就任されている。地域に開かれた北九州市立の公立大学として、北九州市と連携して進められた活動の実績は本学のリーダーに相応しいものである。

2017年度より松尾氏は本学学長に就任され、この間、本学の中で最も長い歴史を有する外国語学部英米学科を大幅に改組し、これまで以上に高度な英語力

(2,000字以内)

※ 本書は、学内イントラネットで公表します。

を習得でき、英語で専門知識を学べる学科としてスタートさせた。「New 英米学科」として注目を受ける中、きわめて多くの志願者を得、優秀な学生を集めて順調な滑り出しを見せている。こうした外に向けた方向性と同時に、地域創生学群、地域共生教育センターを中心として地域と強いつながりを持った活動も充実しており、日本各地の大学がモデルとすべく熱く注目している現状がある。こうした二つの方向性が良いバランスを保ちつつ、5 学部 1 学群がそれぞれに切磋琢磨し、北九州市立大学の高い評価を得るに至っているが、そのリーダーシップを発揮されているのが松尾氏であることを忘れることはできない。

本学は創立 70 周年の際に、「地域」、「環境」、「世界（地球）」を 3 つのキーワードとして打ち出し、未来像を描いている。今後もその方向性を維持しつつ発展させるためのリーダーたり得る人材は松尾氏をおいて他にない。対外的にも現在、大学基準協会理事、大学設置審査会特別委員等を務めておられ、大学の将来像を客観的に見通すことが可能な立場におられる。2020 年はコロナウィルス感染症予防のための対策に迫われ、大学の生命線と言える授業がすべて遠隔授業となるなどの困難の中で対策に迫られ、本来計画して事業の推進が必ずしも十分できなかつたきらいがあるが、その部分の実行を含め、松尾氏に引き続き学長職に就任していただき、松尾氏をリーダーとして教職員一丸となって取り組みたいと強く願うところである。

(2,000 字以内)

※ 本書は、学内イントラネットで公表します。

所信表明書

「北九州市立大学の将来」

(北九州市立大学の将来に関する考え又は学長就任の抱負)

※学長の選考基準を踏まえて記入してください。

学長候補者 氏名 松尾 太加志

私は、1993年に北九州市立大学（当時は北九州大学）に奉職以来、教育・研究に努めてまいりました。2013年度からは副学長（理事）を拝命し、評価や第3期中期計画の策定に関わるなど、大学の運営の骨組みとなる業務に携わりました。そして、2017年度からの第3期中期計画期間から学長（副理事長）を拝命することになり、教学のトップとして運営に携わってまいりました。学長在任期間での法人の評価では高い評価をいただき、職責は全うできたと思っております。

大学を取り巻く環境は変化しつつあり、2018年に中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が答申され、大学は社会の変化に対応し将来を見据えたビジョンを持ち教育のあり方を検討することが求められています。急速な技術の進歩は、私たちの生活・仕事にイノベーションをもたらしつつあります。今後求められるのはその社会の変化に対応した生き方・働き方ができる人材であろうと思われまます。

たとえば、Society5.0に対応すべく数理・データサイエンスの教育が考えられています。統合イノベーション戦略推進会議による「AI戦略2019」では大学生全員が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する目標が盛り込まれています。データドリブン社会にあって、データサイエンスを専門とする人材だけではなく、データに基づいた課題解決や意思決定ができる人材が求められています。

ただし、大学は社会の変化に対応する一方で、教育が一時の流行に流されてはならないでしょう。卒業・修了において身につけなければならない能力は時代を超えて共通しているものがあり、そのポリシーをしっかりと定め、その上で時代にあった専門性を身につけることが重要だと考えています。

北九州市立大学は創立70周年を迎えた際、30年後の創立100周年の未来に向け、大学が目指すべき3つのビジョン「地域」、「環境」、「世界（地球）」をキーコンセプトとしました。地域に根差し、世界に活躍のフィールドを広げ、持続可能な環境共生社会の実現にむけ大きく羽ばたく未来像を描いています。この未来像は国連が定めたSDGsの目標にもつながるものであり、大学の未来を見据えたあるべき姿を示すビジョンとなっています。

北九州市立大学は、地域創生学群、地域共生教育センターを有し、教育を通して地域とのつながりを強めていくことで、大学と地域の双方が期待する成果を上げることができます。また、外国語学部を有する大学として、世界で活躍する人

(2,000字以内)

※ 本書は、学内イントラネットで公表します。

材の育成は北九州市立大学の強みを活かすものです。さらに、ひびきのキャンパスには国際環境工学部、環境技術研究所を有し、北九州学術研究都市の中にあり、環境問題等への取組みを教育・研究の中で実践的に関わることができるリソースを持っています。これらを活かす教育・研究は今後の大学の将来にとって重要なことだと思えます。

大学の運営に目を向けると、学長の強いガバナンスが求められています。ただし、実際のプレイヤーは学生、教員、職員であり、この3者がチームとして高いパフォーマンスを示すようマネジメントをしなければなりません。そのためには大学が目指すビジョンやポリシーを共有することが重要であり、2019年度から大学戦略会議を設置し、将来構想検討会を作りました。これは、将来の検討だけが目的ではなく、教員と職員が教職協働で大学のあり方を考えていくことに意味があり、教職員が同じ課題に向き合うことで、様々な課題を共有できることが重要だと考えております。

共有すべきものは、ビジョンやポリシーだけではなく、それらの背景にある情報の共有が必要です。先に述べたデータドリブン社会は、大学の運営にも当てはまり、明確なエビデンスを有したデータに基づいた大学の運営が重要だと考えています。そのためにはIR(Institutional Research)の充実が必要となります。ここでのデータは数量的なデータだけではなく、大学内外の様々な情報を集約し、それらに基づいたビジョンやポリシーの構築が必要です。今後は、IRを担っていく人材の確保が課題であろうと思っております。

今回のコロナ禍の中で、大学の教育のあり方も見直しを求められるようになりました。アクティブラーニングが求められながら、遠隔の授業ではそれが十分に果たせず、教育の質保証をどのように確保するのが大きな課題です。一方で、リモートで行うことのメリットを活かした教育のあり方、大学運営の在り方も検討しなければなりません。

現代社会は、変化の動きが激しいとともに、コロナ禍にみられるように、想定外の事態に対するリスクマネジメントも求められます。そのような社会状況において責務は重いと感じておりますが、北九州市立大学が未来に向けて持続的に発展するよう尽力する所存であります。

(2,000字以内)

※ 本書は、学内イントラネットで公表します。